

【いわてインキュベーションファンドの概要】

いわてインキュベーションファンド(正式名称「いわてベンチャー育成投資事業有限責任組合」)は、岩手県に所在する成長性の高い未公開企業で、設立7年未満又は中小企業創造活動促進法認定企業などを対象に投資を行うものです。運用期間は平成14年4月22日～平成24年4月21日(10年間)で、業務執行はフューチャーベンチャーキャピタル株式会社が行っています。

株式会社アイカマス・ラボ

未来型コミュニケーションツールを開発



片野圭二社長



携帯電話と接続した「プリンパクト」

世界最小プリンターの誕生

本体の厚さ12.5ミリ、重さ108グラム。携帯電話などに繋いで使える世界最薄・最軽量級のコンパクトプリンター登場のニュースがつい先月、新聞各紙をにぎわした。製品を開発したのは、盛岡市の岩手大学インキュベーションラボ内に事業所を置く株式会社アイカマス・ラボ。元アルプス電気の技術者・片野圭二さんと岩手大学工学部の教授陣によって平成15年5月に設立された、大学発ITベンチャー企業である。

会社設立の契機となったのは、経済産業省の地域新生コンソーシアム研究開発事業として平成14年度から始まった「超小型減速装置」の開発。モーターの動力を増幅・伝達するこの部品は従来は金属製だったが、片野さんらは岩手大が有する金型・表面技術を使いプラスチック化に取り組み、低コストでありながら従来品に劣らない寿命と精度を持つ減速装置を完成させた。この技術を元に第1号製品「プリンパクト」が世に送り出された。

大学と企業の連携を実現

「会社員時代からプリンターの小型化には減速装置の開発がポイントだと考えていた」と語る片野社長。その共同開発の第一歩が、岩手ネットワークシステム(INS)での岩手大関係者と

の出会いだったという。さらに精密金型技術を有する企業が多い岩手県の環境も製品開発の原動力になった。今回の減速装置でも県内製造業2社が加工技術と射出成形技術開発を担当。その経験を踏まえ、片野社長は「モノづくり現場が持つ技術力を核に製品を開発することは地域の活性化にも繋がっていくはず」と展望を語る。中国への技術流出が顕著な地方において、その取り組みは大いに期待されている。

また、大学発ベンチャーである同社は、学生が直接技術開発の現場に携わっているのも特徴だ。「学生時代から自分の技術が世の中に出ていく快感を味わって欲しい」と片野社長は言う。アイカマス・ラボが進める産学官共同での開発は地域活性化に加え、人材育成という成果をも生み出しつつある。

目指すは未来型コミュニケーションのバイオニア企業

6月末から100台の限定販売が始まったコンパクトプリンター「プリンパクト」。この100台の開発費にファンドは活用されているが、片野社長は「会社の経営や販売戦略部分においても投資を受け入れた価値があった」と話す。製品への問い合わせや予約も早々と寄せられており、メーカーとの共同開発

が可能になればプリンター一体型の携帯電話開発も実現されそうだ。

それだけではなく、減速装置という技術は医療や小型ロボットといった分野でも活用の可能性があるため、展開例として同社では携帯電話を利用した遠隔制御装置機能を持つ簡易会議システムの製作も既に手掛けている。「私達が目指すのは、未来のコミュニケーションのための製品と技術の発信。将来はモバイル技術を応用し、触感なども体感できるようになるかもしれません」と片野社長は夢を語る。

「地域づくり」「産学官の連携」「コミュニケーション技術の開発」を企業理念に据える株式会社アイカマス・ラボ。その柔軟な発想は高度な知識との出会いによって、我々のコミュニケーションスタイルを変える可能性を秘めている。

ファンドの視点

市場・技術の事業性・経営陣。投資に必要な3つの要素です。アイカマス・ラボの減速装置は小型精密化が進む市場で、様々な製品への応用・事業化が見込まれます。さらに、社内外の人的ネットワークを作り上げ経営に活かしている片野社長の手腕にこれからの成長が期

待されます。

地域企業との協働による開発の拠点としての成長、そして将来はリーディングカンパニーとしてさらに飛躍していくものと確信しています。

いわてインキュベーションファンド業務執行組
フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
岩手事務所 熊谷 博人

企業概要

設立 : 平成15年5月28日
代表者 : 代表取締役 片野圭二
所在地 : 盛岡市上田4-3-5
岩手大学地域連携推進センター
附属インキュベーションラボ
研究開発室1
電話番号 : 019-654-0443
資本金 : 1,850万円(平成15年5月現在)
従業員数 : 5人
業務内容 : 情報・通信・家電機器等の開発・販売